まちニュース

〝水素トラック〟出発
「全国のモデルケースに」

実証事業でいわき市内の中小企業三社に導入された、水素で走る燃料電池（FC）小型トラックの出発式が五月三十日、市内で唯一水素の充てんができる、鹿島町、鹿島サービス・ステーションで行われた。

実証は、物流の脱炭素化を目指し、トヨタ自動車などが立ち上げた新会社「CJPT」が推進。県と連携し、県内でFC小型トラック六十台の導入を目指している。

市内では今年二月、同ステーションを運営する根本通商が全国で初めて納車。同四月に磐栄運送、同五月に小名浜包装資材が続き、年度内に二十台が運用される予定。

出発式には、導入した三社のほか、納車を控える田村建材、シオヤ産業、大和電設工業の市内三社、市やCJPTなどから代表者らが出席。

根本通商の根本克頼社長が「全国に先駆け、水素の社会実装がいわきからスタートする。地元中小企業が導入しているのが特徴で、三十万人都市のモデルケースにしたい」などとあいさつ。各社の代表らがテープカットし、車両が出発した。

FC小型トラックは、いずれも積載量三トン。十分ほどの水素充てんで、満積載時に二百六十キロの航続距離を実現している。

テープカットで出発を祝う代表者たち

震災特別号を発売中
今春の追悼式など掲載

本誌はこのほど、東日本大震災時のいわき地方の被害状況などを写真でまとめた第三弾『震災特別号　復刻保存版（グラフ編）』（フルカラー、A4・五十六ページ、税込み千円）＝**写真**＝を発刊した。市内各地区の書店で好評発売中。

震災以後、今年で暦が一巡、十二年が過ぎたが、「あの日のことをしっかり記憶にとどめておきたい」といった市民の要望が相次いで本誌に寄せられていたことから、再編集の作業を進めてきた。

五百枚近い写真を掲載した今回の第三弾は、表紙のタイトルに『復刻―保存版』の文字を大書。また、震災後まもなく発刊した一弾、二弾に掲載した写真集の一部転載、記事の加筆、訂正、さらには今春三月十一日前後に市内各地で実施された追悼式、イベント関連の写真なども数十枚加え、ボリュームアップした。

編集部でも発売

『震災特別号』は、市内の主な書店のほか、本誌編集部（電話〇二四六―二九―二四二四）でも販売している。

人形の東月
各種盆用品を展示
特別価格で奉仕中

自由ケ丘、人形の東月（脇山智彦社長）は、八月の旧盆に向けて、盆提灯（ちょうちん）、盆棚など、各種盆用品を展示、特別価格で販売中。

東月の雛人形の雪洞（ぼんぼり）は、提灯の本場岐阜、八女の一流の職人によって作られているため、老舗人形専門店ならではの最高品質提灯が求めやすくなっている。

近年は、川俣シルクを素材に使用したもの、市内「白水阿弥陀堂」、三春町「滝桜」といった県内名所が描かれた盆提灯も人気。現代居住空間に合わせた創作八女提灯は、おしゃれでモダン。アジサイや桜など美しい絵柄で種類も増えているという。

東日本最大級の品ぞろえを誇る同店は、企画・制作から販売・アフターケアまでを行うトータルシステムを採用。

脇山社長は、「故人を思いながら提灯を選び、温かな灯（あか）りをともし、ご先祖や故人を迎えてほしい」と、話していた。

詳しくは、同店（電話二八―三六七五）まで。

店内にはさまざまな提灯がズラリ

市民プールを開放

平下荒川、いわき市民プールは七月一日から開放される。

期間は八月三十一日までで、時間は午前九時～午後八時半。料金は、一般三百三十円、小～高校・高専生百六十円。

問い合わせは、同プール（電話二九―一一七四）まで。